



Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 91
Issue Date	1936-02-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77669
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part27.pdf



[Instructions for use](#)

昭和十一年二月二十五日發行

芒亭書屋談叢

本誌は本學年度の最終號である。特に來月卒業する諸君には在學中の最終號で諸君の送別號と云ふ譯であらう。

陽春と背廣とが目の前に諸君を待つて居る。就職戦線のざわめきも、もうはつきり諸君の耳には聞えて居るであらう。

物心がついた頃學校に通ひ始めた時から今日まで諸君の學校生活は將に十數年、それが愈々終るのだ。一寸センチになるのも當然である。竹刀で劍道を學んで居た時代を終へて、今からは拔身の眞劍で果し合ひをするのだとも云へる。だから出陣の際の武者ぶると云ふ可き感激もあるであらう。

だが眞劍勝負は今から始まるのではない。既に初つて居た筈だ。諸君の過去は諸君の現在を明らかに制約して居るではないか。諸君の現在が諸君の將來を制約するのは又當然である。

人生は正に一回勝負だ。一段の精勵を禱る。